

「見えた!」バードウォッチング



7月27日(土)



第762号
 発行人 ● 豊丘村公民館
 館長 市澤和宏
 編集人 ● 長野県下伊那郡
 豊丘村公民館報
 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (8月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,254人
 女 3,272人
 総人口 6,526人
 世帯数 2,254戸



七月二十七日(土)の朝七時から約一時間、とよおか旅時間周辺の河川敷をフィールドとして、バードウォッチングを開催しました。村内の小学生十名が参加して、ガイドから話を聞きながら野鳥を眺めました。今回ガイドをお願いしたのはこの四月に新しい協力隊として豊丘村に移住してきた有山ひかるさんです。今日は、その時の内容をご紹介します。

とよおか旅時間
矢野智志

朝の澄んだ空気の中、とよおか旅時間に集合した参加者の子どもたちは、まずバードウォッチングのマナーをガイドから学びました。ガイドの有山さんは、普段道の駅のレストランに勤務していますが、趣味でこれまで野鳥の観察を長年

続けており、経験も豊富です。野外は野鳥にとっては家であること。驚かしたり、むやみやたらにあらしたりせず、採集も控えながら静かにそっと見守る。子どもたちはガイドの話にしっかりと耳を傾けて、準備をしていました。

次に早速バードウォッチングをスタートしました。空を見上げると電線に留まる黒い鳥がいます。双眼鏡で眺めながら、準備した簡易の図鑑で何の野鳥かチェックすると、くちばしが少し太いカラス、「ハシブトカラス」とわかりました。見つけた鳥と図鑑の鳥が同じとわかると、子どもたちは満足そうにうなずいていました。

その後、河川敷をゆっくり散歩しながら野鳥を見ていきました。朝は野鳥を観察しやすい時間帯ですが、



「鳴き声も聞こえたよ」

最後に皆で集まり、「とりあわせ」ということをしました。今日実際に見たり、鳴き声を聞いたりした鳥がどんな鳥で、どんな鳴き声をしていったのか意見交換をしました。

今回、初めての試みで子どもたちにとっても豊丘村の自然を知ってもらえる機会になり、今後も継続的に行っていきたいと思いましたが、ご興味のある方は次回ぜひご参加ください。

八月二、三日に社会教育委員会主催の小学生向け『ジュニア防災学』が開講されました。受講者は一年から五年までの五名で、南海トラフ地震により豊丘村が震度六弱を観測し、とよテラスに避難してきたという想定で行われました。

二日の十三時三十分から翌日の十二時で行い、二日の十七時に地震発生、発生後は水道・ガス・電気が使えないという想定で行われ

ました。水道が止まってしまったという想定でしたので、受講者には五百五十mlのペットボトルの水を十本ずつ渡し、飲み水等としました。十七時に地震が発生したところから扇風機や冷房が切れ、暑い中で過ごす一晩が始まりました。

地震発生後の十七時までは学習の時間があり、役場の総務係より避難所や消防のお話をしていたり、防災マップで自分の

家からの避難経路などの確認をしました。また、消防団が使っている小型ポンプが使用できる積載車を見せたり、子供達は大変喜んでいました。その他に防災用品を扱っている信防エディックスの方に避難する際に用意しておく良いものや防災食にはどんなものがあるか実際に品物をみせていただき、日赤の皆さんから高密度ポリエチレンの袋に米と水を入れて炊く、



避難所テントを建てている様子

今日も明日も私は夏野菜を刻む。ああ、そろそろ梨の時期だ。奴は桃なみに足が速い。梨が傷むのが先か、私が切るのが先か、八月も戦いが続いていくのだ。

(小池淳子)

ジュニア防災学
真夏の避難所体験
 8月2・3日

三日は、朝六時三十分のラジオ体操まで起きて、みんなでラジオ体操をした後朝食として防災食のパンを食べ、そのあとは飯盒でカレーを作り、お昼に食べ、終了となりました。

今回のジュニア防災学で子供達にはお水の大切さと、真夏に被災した場合のことが知っていただけて、良い体験となったのではないだろうか。

(公民館主事 丸山美香)

トトトトと夏野菜を刻み、とんとんくりりと果物を切る。今年も夏野菜と果物の時期がやって来た。私の包丁の音は足の速い夏野菜との戦いの音でもある。暑い陽射しの下から救急搬送された夏野菜たちは台所へ運び込まれてくる。キュウリは白くなる前に、ナスやピーマンはシワになる前に、トマトは割れる前に調理してあげなければならぬ。夏野菜よりもっと足が速い桃・スイカに関しては速やかな対応が必要だ。桃はすぐに皮を剥き一口に切って大皿へ。スイカはお上品に二等辺三角形に切られることもなく、一口大に切って大きなタッパーへ詰めていく。スイカは冷蔵庫へ入れる為だけに情緒なく切られていく。

冬になると一本五十円もするキュウリが今はザルに山と積まれてつやつやと光っている。食卓はキュウリやピーマンの緑、トマトの赤、ナスの紫、とうもろこしの黄ととても鮮やかだ。幼いころ父が食卓のキュウリの多さに「オレは鈴虫じゃねえ」と言っていたのを思い出す。すでに我が家も誰かが言っていたような。でも野菜は体にいいからとみんな言い合う。

段立

公民館報『とよおか』 五大ニュースをさかのぼる

(七) 昭和47年

昭和47年は農協の合併、農作物の凍霜害、農業構造改善事業と農業関連の話題のほか、山間地の別荘開発

1	農協合併なる	100票
2	長沢別荘団地問題土地交渉なる	71票
3	凍霜害の被害大	65票
4	師走の総選挙	52票
5	進む団地化(畜産、リンゴ、ナシ団地)	31票
5	第二次構造改善事業初年度工事完成	31票
5	予算五億円の大台へ(高福祉に期待)	31票

四方を海に囲まれた日本人にとって海や港に関する歌は特別な意味を持つものが多い。海は日本列島を取り囲む自然の恵みであり、日本人にとっては古くから生活や文化に深く関わってきた。その広大さや神秘さ、そして喜びや悲しみを表現する手段として、多くの人々に愛されてきた。海は時に荒れ狂いそこで生計を立てる人の命が危険に晒される一方で、時には穏やかな風景を見せることで、人々にさまざまな感情、安らぎを呼び起こす。

港は人々の出会いや別れ、出発の場所であり、多くの思い出が詰まった場所として、歌には豊かな情感が込められている。ごく一部ではあるが歌謡曲の中で代表的なものとして以下を挙げたい。

歌は世につれ〜 三十五話

海・港を思う

長崎 桐崎 南市場

おんな港町(八代重紀)テンポ良い曲で本人が亡くなった今も長距離トラックドライパーに絶大な人気を得ている。北の漁場(北島三郎)北海道の厳しい海で働く漁師の心情を歌っている。港町挽歌(吉幾三)元々は石川啄木が詠んだ詩で港町の風景や人々の暮らしを詠ったもの。吉幾三が北洋の荒くれ海や、夫婦になることへの命がけの意味を込めた。海 その愛(加山雄三)



海鳥飛び交う漁場

壮大な海のイメージを表わし、コンサートの最後を飾る曲となっている。漁師や船乗り、海女などの生活や労働を描いた歌は海と人々のつながりや尊さを表現し、多くの人々に感動や感謝の念を与えてきた。日本の風土や文化を反映し、多くの人々にとって心の拠り所となる音楽の一つとして、今後も長く歌い継がれていくだろう。

『貧困を救え』八方ふさがりの状況でいま僕には仕事もお金もない。友人の紹介で、業界紙の小さな広告制作デザイナーから再スタートした。帰国してから三ヶ月が経ち、未だ進路が定まらなかつた。僕はある決断をした。バングラデシュで奉仕活動する僕と、手紙をやりとりしていた女性がいた。大学民主化闘争や文学・芸術論などよく議論をしていた。同志的存在であり共に理解する仲間だった。どん底の無一文での結婚を決めた。彼女はまた美大の学生である。結婚式司会は、バングラデシュ農業復興奉仕団団長の高見牧師が快く引受けてくださった。早稲田奉仕団の式場で挙げた。披露宴は近くの蕎麦屋だった。会費制で、友人たちには芸達者が多く演者が続いた。会場は大盛り上がりになった。『式はこういうのがいいんだな』と「ご機嫌になった礼服の叔父からも飲ばれて、それが嬉しかったのである。

なにもをどのようにすれば活動が成り立っていくのか解らないまま、我が身に言い聞かせるように街頭に立ちアピールを続けていた。毎週、日曜日には新宿歩行者天国で街頭募金をひたすら続けた。冬が来る頃には共に活動を始めた仲間も二人、三人となくなっていく。なにもをどのようにすれば活動が成り立っていくのか解らないまま、我が身に言い聞かせるように街頭に立ちアピールを続けていた。

新宿紀伊国屋書店前は人生へのチャレンジの場でもある

①昭和33年に神稲、河野両村の合併によって豊丘村ができた後も旧村の農協は別々に存在したが、この年3月にひとつになった。②片倉チツカリン(株)不動産部が中央道の開通を見通し、長沢地区に300戸の別荘団地を造成し中京方面の客を呼ぶ計画を持ち込む。環境の急激な変化が予想され、館報では毎号のよりにこの話題を取り上げた。9月には村と開発会社の間で9条項からなる造成契約書が交わされた。③5月3日朝の低温で農作物に凍霜害が発生。主に中段地帯での果樹、桑園、特用作物などに総額5千万円超の被害が出た。④この年発足した田中角栄内閣は日中国交正常化を成し遂げた。12月の総選挙ではその信が問われた。結果は自民が議席を減らし、社会党、共産党が躍進した。豊丘村を含む長野3区では自民2、社会1、共産1が当選。⑤農業立村を標榜して農業の団地化が始まって2年目。主に果樹の団地が天竜川沿い、大柏、南平、山田に完成。畜産では三次原に2千頭飼育の養豚団地ができた。他に桑園、蔬菜の団地も計画され、農家所得の増加が期待された。

★この年の出来事
日本列島改造II土地ブーム
戦後2回目のベビーブーム
『恍惚の人』(老人問題)話題になる
パンダ大人気
★この年のヒット曲
『女のみち』(宮史郎とピンからトリオ)
『瀬戸の花嫁』(小柳ルミ子)
『さよならをするために』(ピリーバンバン)

日本に帰国後、バングラデシュで撮りためた写真とともに東京の新聞社を訪ねた。写真のベタ焼きを見ながら記者はいった。『もつと悲惨な写真はないか?』新聞やメディア等に掲載される映像には、読者の戦争イメージのより刺激的な映像とわかり、僕はそこから去った。先に帰国していた仲間たちと再会する。『このままで終われない、目にしてきたことは忘れられないぞ!俺たち!』多くの方からの資金援助を受けて、バングラデシュで働いてきた。『報告会を開こう!』仲間とは共通の想いがあった。上智大学の教会で『バングラデシュ農業奉仕団帰国報告会』を開いた。わずか半年足らずの奉仕団の使命では、あの国の持つ貧困の問題は解決への糸口すら見出せなかつた。『未来を担う子どもたちへの教育が重要』と考えた。子どもの教育問題を軸に、今後の支援を継続して行くことに目標を定めた。

七月二十日(土)に豊丘村ふるさと応援大使を務めていただいている、元アーチエリーオリンピック選手のおか元氣塾が開講されました。昨年引き続き二年目の今回は、元NHKアナウンサーの堀尾正明先生を講師にお迎えし開講されました。それぞれの方から、元氣が出るお話をお聞きしました。山本先生によると、運動や笑うこと、チーズや大豆を食べることで人は幸せホルモンがでるとのことです。堀尾先生も、人助けのボランティアを例に、幸せホルモンの話をしてくださり、その例として埼玉県幸手団地の支え合い有償ボランティアの話をしていただきました。高齢者の一人暮らしが多い団地で、高齢者同士で支え合う仕組みができています。元氣塾が活躍しているように感じました。二時間があっという間に過ぎてしまう程、お二人の

お話は興味深いものでした。ご参加いただき、元氣な豊山本先生による『とよおか元氣塾』来年も開講される予定ですので、是非皆さん

人々から質問を浴びた。『経済的ビジネスの関わりだけでなく、社会的なボランティア活動や教育などソフトの協力が重要だ』と訴えた。正規に仕事にもつかず、『お前はそんなに飯がくえるのか?』僕にもこれからのことが解らなかつた。バングラデシュでは独立戦争を経て、経済も成り立たず、戦後の混乱の中にあつた。貧困から抜け出す手段は見つからなかつた。充分な援助もなかつた時代、この国の未来を担う子どもたちこそが希望だと思えた。それには、教育の場が必要であると考えていた。毎週、日曜日には新宿歩行者天国で街頭募金をひたすら続けた。冬が来る頃には共に活動を始めた仲間も二人、三人となくなっていく。なにもをどのようにすれば活動が成り立っていくのか解らないまま、我が身に言い聞かせるように街頭に立ちアピールを続けていた。

とよおか 元氣塾

七月二十日(土)に豊丘村ふるさと応援大使を務めていただいている、元アーチエリーオリンピック選手のおか元氣塾が開講されました。昨年引き続き二年目の今回は、元NHKアナウンサーの堀尾正明先生を講師にお迎えし開講されました。

それぞれの方から、元氣が出るお話をお聞きしました。山本先生によると、運動や笑うこと、チーズや大豆を食べることで人は幸せホルモンがでるとのことです。堀尾先生も、人助けのボランティアを例に、幸せホルモンの話をしてくださり、その例として埼玉県幸手団地の支え合い有償ボランティアの話をしていただきました。高齢者の一人暮らしが多い団地で、高齢者同士で支え合う仕組みができています。元氣塾が活躍しているように感じました。二時間があっという間に過ぎてしまう程、お二人の

お話は興味深いものでした。ご参加いただき、元氣な豊山本先生による『とよおか元氣塾』来年も開講される予定ですので、是非皆さん



公民館主事 丸山美香

夢見た遠く地平線
仕事にも就かず
なぜボランティア活動なのか?
北市場 福澤郁文

写真パネルに張り、バングラデシュの状況を声を張り上げ伝えていく。茶箱への投げ銭はわずかだった。僕は白チョークを手にバングラデシュのこと、子供たちへの想いや貧困を救え!と、道路に座りこんでアジテーションを描きながら歩いていた。ある日曜日の路上で聞いた『おい!郁じゃねえか?』顔を上げると北市場の先輩の懐かしい顔があつた。

僕はある決断をした。バングラデシュで奉仕活動する僕と、手紙をやりとりしていた女性がいた。大学民主化闘争や文学・芸術論などよく議論をしていた。同志的存在であり共に理解する仲間だった。どん底の無一文での結婚を決めた。彼女はまた美大の学生である。結婚式司会は、バングラデシュ農業復興奉仕団団長の高見牧師が快く引受けてくださった。早稲田奉仕団の式場で挙げた。披露宴は近くの蕎麦屋だった。会費制で、友人たちには芸達者が多く演者が続いた。会場は大盛り上がりになった。『式はこういうのがいいんだな』と「ご機嫌になった礼服の叔父からも飲ばれて、それが嬉しかったのである。



投網

竹村英雄

投網というものを覚えたのは大方三十歳過ぎてからと記憶している。何しろ夢中になって、土曜日と言ったときと出かけたものである。その他でも雨が降って水出の具合がよいと思うと、万障差し繰って出かけたのである。そうなるに一張りや二張りの網では間に合わない。大破りでもしようものなら修理に出しても早速できなくて、いざという時行かれないので幾張りも持っていた。一番多い時は七張りもあった。

そういうと素晴らしい名人で、魚も定めたくさん獲ったことだろうと思われわけだが下手の横好きと

いやつで、時々空っぽで帰る時もあった。

投網でよく取れる時間は朝網、背あぶり、夕網、夜網と言ふことだけは一応知っている。その夜網も人のいないと思う時期を狙うのが一番よいわけで、夜中の十二時に出て二時に帰るということをよくやったものである。

ある大雨のあった後、例によって例の時間に福与の間沢川尻方面に出かけた。ホッキを越して曲がり角を出て江田近くを見ると、青光りの火がちようどホテルの出盛りのように一面燃えている。川沿いはもちろん、県道にも、山の斜面にもそれぞれ一面である。この年にしてまだ人魂なるものにお目にかかったことは一度もなかった。

た位牌が絡んだことがあったがあまりいい気持ちじゃなかった。

一度は大きな鯉を獲ったことがある。大盥に入れたもなおしっぽを曲げているという代物。大体こんな大きな鯉をかぶせた場合、よほど上手にあしらってあげないと馬の通るような大穴を開けて逃げられるのが関の山だというのに、とろくさい鯉だったなと思つてよく見ると、水出で頭に怪我をして浅瀬に出ていたために獲れたのである。ちようど家内が妊娠していたので、そんな主のような鯉は食べない方がいいと人が言うので沢木屋さんに買ってもらった。確か三十円だったと覚えている。獲った魚を売ったのは後にも先にもこの時だけ。後で聞いた話だが五人ですき焼きにしたということだった。

夜網ではよく土左衛門にかぶせたとかいう話を聞いていたが、そういうことは一度もなかった。流れてき

令和6年度文化事業

とよおか金馬寄席

豊丘村民話集 第貳集

文責：壬生雅穂

お問い合わせは 豊丘村公民館まで

チケット販売中!

開催日：令和6年9月14日(土) 開場：15時30分

会場：交流学習センター(ゆめある大ホール)

主催：豊丘村公民館

協賛：豊丘村教育委員会、豊丘村観光協会

お問い合わせ先：豊丘村公民館 電話：0265-35-9066

※プレイヤード 豊丘村教育委員会、豊丘村観光協会

※お問い合わせ先：豊丘村公民館 電話：0265-35-9066

※お問い合わせ先：豊丘村公民館 電話：0265-35-9066

こちら資料館(245) 伴野富士講が奉納した石灯籠

七月はじめ山梨県富士河口湖町にある富士山世界遺産センターから電話がありました。富士吉田市にある北口本宮富士浅間神社に、「宝暦七年丁丑四月十七日信州伊那郡供野村松泉院講中」と刻まれた立派な石灯籠一対(写真①)があるが、関連する資料はないかという問い合わせです。

供野村とは豊丘村の伴野に間違いのないと思われます。そこで、武田彦左衛門先生の書かれた『村の石神と石仏』で調べてみると、「明和二年富士登山十六度供養大先達松泉院」という碑が伴野の島公園にあることがわかりました。早速、場所を聞いて行ってみると、確かに現存していることが確認できました。(写真②)



▲写真①

富士山に信仰する「富士講」は、江戸時代に全国的に広がり、長野県内にも佐久や安曇野周辺に資料が残つ

ているとのことです。しかし、伊那谷での資料は今回が初めてのことです。非常に関心を持たれたようです。また、河野浅間神社の先達

の家が今も残っていることを伝えると、その家で聞き取りをしてから帰って行かれました。

山梨県立富士山世界遺産センターでは今「信州に展開した富士信仰」と題する展覧会を九月二三日まで開催中です。伴野や河野の富士講がどのように紹介されているか興味があります。

資料館主任 唐澤武彦

「わたしのなつかしい一冊」池澤 夏樹(編) 毎日新聞出版

「心の深層に定位している、折に触れて浮上してくる」そんな自分だけの特別な一冊について綴る毎日新聞の「なつかしい一冊」の書籍化。作家ら五十人の意外な一冊、納得の一冊が軽やかな絵と共に紹介されています。続刊の『あなたのなつかしい一冊』『みんなのなつかしい一冊』ではさらに幅広い著名人らの心の一冊を知ることができます。

移動図書のご案内

九月の移動図書

三日(火) 伴野勤労者福祉センター

六日(金) 壬生沢福島集落拠点施設

図書館だより 8月号

蔵書点検休館のお知らせ

図書館は蔵書点検に伴い、次の日程で休館いたします。

九月十日(火) 九月十四日(土)

分だけのすてきな飾りをつくらう! どうぞ皆さんお越しください。

梅雨曇り殿の愛でたる井戸潤るる 池田 美和

紫蘇もめば卒寿の色と香を放つ 細井 恵子

ボイトレの新曲いどむ盛夏かな 吉川 明子

車窓より流るる街並四葩咲く 片桐 洋子

畦道にねじ花楚楚と真直ぐなり 森田 恵子

梅雨寒や米寿の足首冷え冷えす 木下 眞水

十五分面会叶ひ涼しき日 松岡 照子

七夕竹揃ふ家族のいろあかり 宮下 純子

郭公の声のこすのみ陣屋跡 林 恵美子

長寿もなほ朝刊の音と梅雨生さる 丸山 時子

螢の夜響のおもかげ母忌日 矢島千勢子

柳

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「強」 福沢勝美 選

強風でビニールハウス台無しに 安田 喜子

強情に我を通したが気が重い 林 もも子

なに見ても疑い強くなる表示 小澤 凛

軸吟：裏金で一強自民かげり見え

▼課題「虫」 互選

腹の虫増やさぬことが生きるこつ 原 美風

話すにも虫の居所見計らい 山本 義彦

▼自由吟 山本義彦 選

この暑さ耐えりやうれしい虫の声 福沢 勝美

そこそこの幸せイモの煮ころがし 西元 峯子

猛暑だで「気をつけなよ」娘は帰る 市沢 照子

軸吟：もしトラが現実味帯び混乱も

~シリーズ~ 豊丘の自然

No.247

ナマズ(ナマズ科)



二〇二四年六月十七日、水辺の学校で。吉川正志さんが、つりあげた大物ナマズ。これだけで十分でも、できれば大きき(長さ、重さ)を計測しておきたかった。ちなみに、青年の身長は百六十八cm。(山田 拓)

史学会歴史探訪 松川町 上片桐歴史巡り

史学会 片桐林三

令和六年度の豊丘史学会歴史探訪は、松川町上片桐地区の寺院、神社、宿場跡などの史跡を半日で巡るコースで実施された。

幸則さんに案内説明役をお願いした。午前七時五十分「ゆめあるて」をマイクロバスで出発した。最初に訪れたのは瑞応寺。臨済宗妙心寺派で中部伊那地方に大きな力を持った片切氏の菩提寺で開山は雪岫瑞秀禪師である。瑞応寺ではご住職の案内で約一時間ほど見学させていただいた。臨済宗中興の祖と言われ、白隠禪師の墨蹟他数々の貴重な文化財があることで知られ、中でも達磨大師・臨済大師・雲門大師の三僧を描いたかけ軸は、全国の白隠遺墨中の代表的遺墨と言われている。これらは以前は非公開となっており、拝見することが難しかったが、現住職が着任されて拝見させていただくことができた。

次に、片切氏築城の船山城跡に立ち寄り酒井さんに簡単に説明いただき御射山神社へ。御射山神社は船山城跡内にあり、旧片桐七カ村の氏神で鎌倉時代からの歴史を持つといわれる。諏訪大社と同じ「御柱祭」が開催されており、祭事の際は周辺地域からも多くの人が集まりにぎわっている。御柱としては伊那谷最大で、諏訪に次ぐ規模とのことである。我々が訪ねた時は、他には誰もおらず神社はひっそりと静まり返り、四隅には大きな御柱が立っていた。次に向かったのが閻魔大王と十王信仰の祠で有名な清泰寺。死んだら必ず閻魔大王の審判を受けなければならぬという。閻魔堂には伊那谷最大と言われる木彫りの閻魔様が鎮座し、他の十王像も安置されていた。酒井さんから十王信仰について、三途の川がどういう意味を持つものかとか、脱衣婆とは何かとか説明いただき死後の世界について若干触れたような気がした。

上片桐地区の最後は、三州街道(伊那街道)に残る片桐宿。江戸時代の初期、飯田城主京極氏によつて伝場宿として新設され、以後、民間輸送機関としての中馬の発達により、馬や旅人で賑わったとのこと。すこし歩くと、敷地がゆつたりしていて塀に囲われた厳かな邸宅もあり若干ではあるが往時を感じることもできた。片桐陣屋跡に行くに次ぐ規模とのことである。我々が訪ねた時は、他には誰もおらず神社はひっそりと静まり返り、四隅には大きな御柱が立っていた。次に向かったのが閻魔大王と十王信仰の祠で有名な清泰寺。死んだら必ず閻魔大王の審判を受けなければならぬという。閻魔堂には伊那谷最大と言われる木彫りの閻魔様が鎮座し、他の十王像も安置されていた。酒井さんから十王信仰について、三途の川がどういう意味を持つものかとか、脱衣婆とは何かとか説明いただき死後の世界について若干触れたような気がした。



て伝場宿として新設され、以後、民間輸送機関としての中馬の発達により、馬や旅人で賑わったとのこと。すこし歩くと、敷地がゆつたりしていて塀に囲われた厳かな邸宅もあり若干ではあるが往時を感じることもできた。片桐陣屋跡に行くに次ぐ規模とのことである。我々が訪ねた時は、他には誰もおらず神社はひっそりと静まり返り、四隅には大きな御柱が立っていた。次に向かったのが閻魔大王と十王信仰の祠で有名な清泰寺。死んだら必ず閻魔大王の審判を受けなければならぬという。閻魔堂には伊那谷最大と言われる木彫りの閻魔様が鎮座し、他の十王像も安置されていた。酒井さんから十王信仰について、三途の川がどういう意味を持つものかとか、脱衣婆とは何かとか説明いただき死後の世界について若干触れたような気がした。

分館事業 夏季球技大会 白熱と灼熱 第一分館分館長 松川忠司

令和六年度第一分館分館長を務めています松川忠司です。執行部四役を中心に分館員一丸となって、各事業に取り組みしていきます。河野区イコール第一分館という構成になりますので、事業によっては河野区会、商工会、そして各自自治会から選出される協力委員の皆さんと力を合わせてやっていきます。第一分館の最初の事業と

なる夏季球技大会を七月七日に行いました。梅雨の時期ということで天候の心配があり、金曜日の雨でグラウンドコンディションを気にしていました。当日は快晴で無事開催することが出来ました。この大会は毎年三競技を行っています。ソフトボールを村民グラウンド、ソフトバレーボールを村民体育館、マレットゴルフを水辺

マレットゴルフ場に行いました。こちらからの呼び掛けに対して、各自自治会入集めに奔走していただき、ソフトボールで六自治会、ソフトバレーボールで六自治会、マレットゴルフで六自治会十二チーム参加してもらえました。昨年と同規模の大会になりました。計画を進める中で、熱中症に対する予防、対策について考えなければなりません。試合時間などのスケジュールや経口補水液などの水分補給、テントや扇風機による暑さをしのぐ

ための対策など思いつくままに出来る限りの準備をしました。熱中症警戒情報も前日からの動向を見ながら競技中止の判断も視野に入れた大会を進める事にしました。各会場とも定刻通り八時開会式、八時三十分試合開始が始まりました。各試合、熱戦が繰り広げられていき、時間が進むにつれて気温がどんどん上がり、試合プラス暑さとの戦いになってしまいました。トーナメントの都合上、連戦になってしまいうちチームもあり、願います。

試合の進め方について、休憩を多くとるか試合時間の短縮をするかなど考えましたが、当事者の皆さんに声をかけをし、確認を取りながら試合を進め予定通り大会が出来ました。会場での状況の変化に対応してくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。反省課題等ありましたが、次に繋げていきますので今後ともよろしくお願います。

コンデジ修行 その瞬間が面白い

写真は風景写真も楽しいのですが、人の表情や仕草には親近感が持たれ、その瞬間を切り取るのがスナップ写真の醍醐味と言えます。今回は人物スナップを取り上げ瞬間の面白さと、何を表現しているのかを見てみます。スナップの基本とは「誰が、いつ、どこで、何をしているのか」を盛り込むことが大切です。

狙いを定めたらとにかく瞬間を待つことです。気持ちを出してしまえばいい。運動会では動きの表現ができて初めて成功します。足が宙に浮き次の一歩を想像できず、躍動感を織り交ぜることで成功します。とにかく何枚も撮影します。

大人と子供では親子関係が見る側には印象深く伝わるものです。お母さんがクリスマスリースを作る場面で、子供は手元を心配そうに見つめる姿が二人の関係を表現できました。腕にひかまりながら小さな手が親密さを出してくれました。親子でおやす作りの場面では、懸命に手を動かして集中する我が子に、そっと手を貸し出す父親とのふれあいが表現できたと思います。ぐっと二人の関係を引き寄せて周辺環境は入れないことでより訴求力が強くなります。

透過光により写真は生き生きと輝きはじめます。綿菓子や口に運ぶ少年の瞬間は、無防備な一面をベストな瞬間で切り取ることで可笑しさが伝わりました。スナップは顔が見える場面では必ず本人の承諾を得なければなりません。広いロケーションの中の人物はあまり気にすることも無いでしょうが、自分の場合は事前に了解をとったり、撮影後に確認のため映像を見てもらいます。親御さんが居たら了解を得てダメな場合は削除することもあります。風景写真よりも面白いスナップをお勧めします。フォトマスター級 宮下正弘

